Ⅰ 研究の概要

1 研究主題

自ら学びに向かう児童の育成
～個々の児童に適した授業展開を通して～

2 主題設定の理由

昨年度、本校では「対話的な学習活動を促す発問の工夫」を中心に研究を進め、目的に応じた多様な発問が授業の中に取り入れられたことで、児童の発言が増え、学習への見通しや気付きをもつ姿が広がるなどの成果がみられた。また、各学年が児童の実態に応じた工夫を行い、対話を意識した授業改善が推進されたことも大きな成果であった。

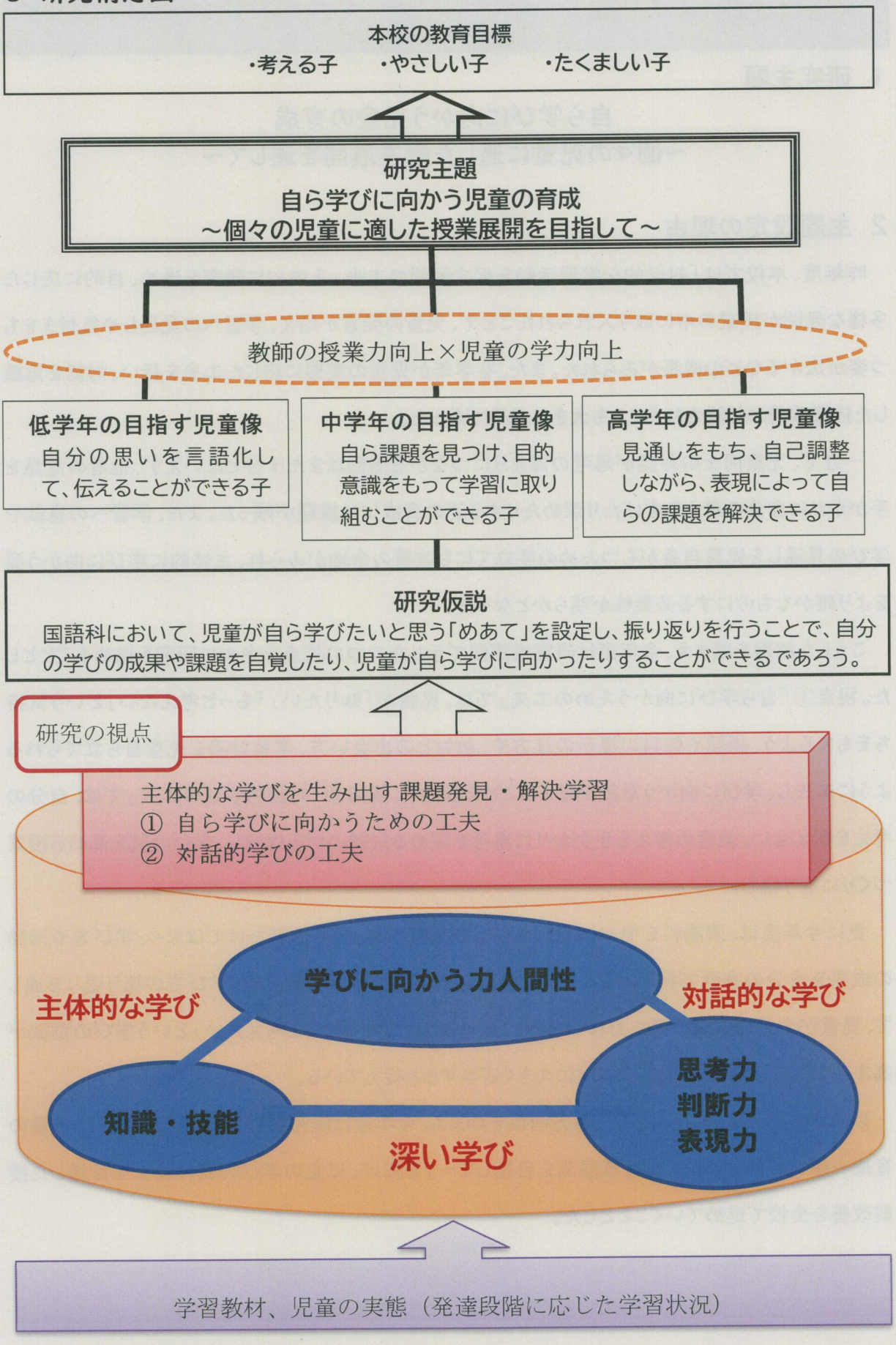
一方で、児童同士の対話が思考の深まりにつながる場面はまだ十分とはいえず、他者の意見を手がかりに自分の考えを広げたり深めたりする姿の育成には課題が残った。また、学習への意欲や学びの見通しを児童自身がもつための手立てにも改善の余地がみられ、主体的に学びに向かう姿をより確かなものにする必要性が明らかとなった。

こうした課題を踏まえ、今年度は研究構想図で示した二つの視点を中心に研究を進めることとした。視点①「自ら学びに向かうための工夫」では、児童が「知りたい」「もっと考えたい」という気持ちをもてるよう、課題や教材の提示の仕方や、教材との出会い方、学習計画を児童自ら立てられるように工夫し、学びに向かう意欲を育てることを目指す。視点②「対話的学びの工夫」では、自分の考えを伝え合い、他者の考えを手がかりに思考を深める対話の場を保障し、学びの質を高める授業づくりに取り組む。

更に今年度は、国語科を中心に「振り返り」を充実させ、学習内容だけではなく、学び方や活動の成果を自分の言葉で振り返ることを大切にした。情意的な振り返りや、学び方の振り返りを通して、児童が自分の成長や得た力に気付き、「次はこうしたい」「もっと考えたい」という学びの意欲が高まることが、主体的な学びの実現に大きく寄与すると捉えている。

以上の成果と課題、そして研究の方向性を踏まえ、今年度は研究主題「自ら学びに向かう児童の育成～個々の児童に適した授業展開を目指して～」を掲げ、児童の学びの質の向上を目指した授業改善を全校で進めていくこととした。

3 研究構想図


本校の教育目標
・考える子　・やさしい子　・たくましい子
研究主題
自ら学びに向かう児童の育成
～個々の児童に適した授業展開を目指して～
教師の授業力向上×児童の学力向上
低学年の目指す児童像
自分の思いを言語化して、伝えることができる子
中学年の目指す児童像
自ら課題を見つけ、目的意識をもって学習に取り組むことができる子
高学年の目指す児童像
見通しをもち、自己調整しながら、表現によって自らの課題を解決できる子
研究仮説
国語科において、児童が自ら学びたいと思う「めあて」を設定し、振り返りを行うことで、自分の学びの成果や課題を自覚したり、児童が自ら学びに向かったりすることができるであろう。
研究の視点
主体的な学びを生み出す課題発見・解決学習
① 自ら学びに向かうための工夫
② 対話的学びの工夫
学びに向かう力人間性
主体的な学び
対話的な学び
知識・技能
思考力
判断力
表現力
深い学び
学習教材、児童の実態（発達段階に応じた学習状況）